

若手・中堅職員の本音！

Interview

職員紹介をしてくださった建築関係職員の皆さんに、仕事のことからプライベートのことまで、本音で答えて貰いました！

Q1. プライベートの過ごし方は？



最近、子どもが歩けるようになったので、公園で遊んだりしています。夫婦揃って旅行が好きなので、「子どもが生まれたらまたいろいろなところへ行きたいね」と話していました。

現在は浜通りの出先機関に所属しているため、サーフィンや釣り、観光地巡りなどその地域ならではの満喫しています。



資格勉強をしたり、同期の友達と遊んだりしますが、寝ている日もあります。コロナが収まったら、県内外へ旅行に行きたいと思っています。

最近友達と出かけたり映画館へ行くことにはまっています。先輩・上司がおすすめする飲食店巡りも楽しみの1つです。



午前中は寝ていることが多く、午後に興味のある事柄の勉強や運動を行っています。

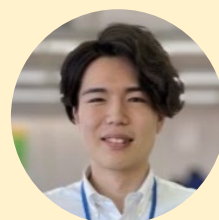


Q2. 福島県の好きなところや自慢は？



米、酒、野菜、果物、魚……。おいしいものがいっぱい入庁して8キロ太りました（その後ちゃんと痩せました）。美しい自然もたくさんあって、登山やドライブが楽しいです。体を動かした後の温泉とお酒は格別です。県土が広く地域ごとの土地柄や文化を楽しめるところは福島県の特徴の一つだと思います。

福島県は土地の広さ故に、浜、中、会津で特産物が異なり美味しいものが沢山あることが魅力の一つだと思っています。個人的にはなんといっても全国的にも有名な会津地方のラーメンは外せないです。同じ季節でも気候が全く違うので楽しみ方が異なるのも自慢できます。



福島県はそのスケールの大きさと自然の豊かさが魅力だと感じています。同じ県内でも浜・中・会津で気候や文化がたくさんあり、次の勤務地が少し楽しみです。また、個人的に果物が好きなので、福島の果物はおいしくて自慢できると思います。

Q3.

県職員になって良かったことは？



大学で建築を学びましたが、具体的な知識はあまりなかったので、「監督員」という立場で工事現場を身近で見ながら、とても楽しく仕事できています。私は営繕業務しか担当したことはありませんが、建築行政の様々な業務に携われることが魅力と思います。



復興公営住宅の整備を始め、被災した高校の改築工事等、復旧・復興の現場に携わり、電気職だったからこそ、いろいろな経験をさせてもらえました。また、様々な都府県から応援に来てくださった応援職員と一緒に仕事をする経験ができ、今でもプライベートで繋がりをもっていることは、幸せなことと感じています。

設備職員は電気が約50人、機械が約20人と人数の少ない職種です。横のつながりがとても強く、入庁して間もない私でも多くの人に顔を覚えてもらいました。更に優しい人が多く、分からないことがあっても親切に教えてもらえるので、働きやすい職種の一つと思います。



福島県をより良くしたいと思い、電気という立場からの県職員を志願しました。ダム管理事務所に配属となり初めは戸惑っていましたが、下流の方々を考えて業務に励んでいるとやりがいを感じています。長年のより良くしたいという思いを実行できて良かったと思います。

Q4.

入庁して率直に感じたこと、入庁する前とのギャップについて



年齢の近い建築技師がおらず最初は心細かったです。また、仕事をしっかり覚え、こなすことができるか不安でした。入庁する前とのギャップは、建物造りだけが全てじゃない！建築を支える様々な仕事があって、様々な業務を体験できると知りました。

入庁する前は、お堅い職場で、事務所内での作業が多いと思っていましたが、いざ入庁してみると、建設事務所ということもあり、賑やかな職場で驚きました。電話や来客も多く、工事監理等で現場へ出ることも多いので、イメージしていたものとはだいぶ印象が異なりました。



商工労働部（ハイテクプラザなど）をイメージして受験したので、当初は建築設備の業務に不安がありました。しかし、建築設備職にはそのような人が多く、驚きながらも少し安心しました。

入庁する前は、なんとなく堅いイメージで厳しく、事務作業が多いと思っていました。ですがそんなことは全くなく先輩や上司の方も優しく、仕事も現場メインで動いていることが多いので驚きました。今も、何かできてもまたすぐ疑問が生まれるので学ぶ日々です。



外出する機会が多く、積極的に業務を行うものだと思っていたのですが、外出の業務が少ないことに驚きました。



Q5.

入庁後のサポートについて



上司や先輩職員が丁寧にご指導くださり、研修等も充実しているため、若手職員のスキルアップを図れる環境がそろっていると思いました。

職場の雰囲気良く、些細なことでも質問して、理解ができるまで教えていただきました。また、自分の担当以外の現場にも連れて行っていただき、短い期間で数多くの工事現場を見ることができ、営繕担当の業務の内容を幅広く知ることができました。



建築職員としても、社会人としても1年目で不安でしたが、先輩方は皆さん親切で、仕事も丁寧に教えてくださったので心強かったです。1年目の職員には、仕事や職場生活全般に関してマンツーマンで相談に応じるサポート職員が1人付きます。職場のルールやマナー、仕事の知識等、その他困ったことがあれば、いつでも近くに頼れる先輩がいます！また、「仕事は一人でするものではなくチームで行うもの」という先輩の言葉を聞いて、一人で抱え込まずに頼ることができています！



電気系の高校を卒業して、電気の知識は多少あっても仕事の知識は全くでした。そんな中上司や先輩方にも恵まれ質問しやすい環境で本当に良かったと思います。僕が書類探して沢山歩ったり、考え込んでいる様子だとすぐに「大丈夫？」などと聞いてくださるので自分自身のスキルアップにも繋がります。



分からないことがあれば先輩や上司の方々が親切に教えてくださるのでとても助かっています。

Q6.

本庁と出先の仕事の違い

出先では、何よりも目の前の課題（工事）をこなすことが求められていると感じました。その上で県の施策や方針を理解して現場に反映させることと、その課題を見つけて本庁にフィードバックさせることが大切だと思います。



本庁は、制度設計や制度を運用する際の企画、条例の改正など全体的な調整を行います。時には国と市町村との間に入り調整役となるなど業務は多岐に渡ります。出先は、建築確認申請を審査し、建築物の完了検査では現地に行つて、図面どおりに建築物が完成しているか確認しに行くなど、制度の運用を主に行います。



Q7.

仕事と資格取得について

一級建築士試験の勉強は主に休日にやっていたのですが、学科試験の年は、子どもが生まれたばかりでもあり、子育てをしながら非常に苦勞して勉強していたことを覚えています。仕事は早く終わらせるように意識して、平日も勉強時間を確保していました。



職場が勉強場所。現場を見て疑問を持って調べることや、理解することが資格取得につながると思います。現場で生じた技術的な疑問をそのままにしないことは知識の定着に役立つと感じました（もちろん仕事の質を上げるためにも重要と思います）。

Q8.

男性が多い職場について



女性は少ないですが、少ないからこそ仲良くなりやすいというメリットもあります。また、女性ならではの視点で考えられることもあるので、議論も活発になると思います。

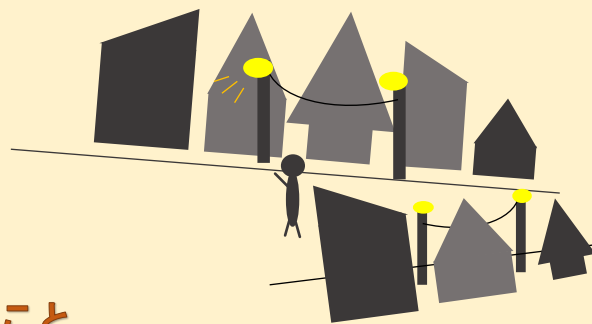


入庁時、特に最初の所属は、男性しかいない職場、ベテラン職員の多い職場に、戸惑いがありました。男性の多い職場に女性がいるということは、良くも悪くも目立ちますが、女性だからといって特別扱いされることはなく、平等に仕事（現場経験）を与えてもらえることは、とても嬉しいことです。

Q9.

民間企業との違い、公務員ならではの特徴

民間企業においてはその工事や事業の一部でしか関わることはできませんが、公務員はその計画から工事又は実施、維持・管理まで多岐に渡って携わることができる点だと思います。



Q10.

家族との時間の過ごし方・工夫、大切にしていること



仕事とプライベートのON/OFFはしっかり行い、休日や早く帰宅できた平日は積極的に子どもと遊ぶようにしています。また、家族と一緒にスーパーに買い物に行ったり、公園など子どもの遊び場に行ったり、犬と散歩するなど、家族と過ごす時間が大切です。



なにげない家族会話やおうち時間を大切にしています。平日は、子どもを保育園に預けている時間が長いため、休日は子どもとの時間を大切に、思いっきり遊ぶようにしています。

